

# 2017年（平成29年）北海道山紀行



## 序章

・毎年「今年で最後にしよう」と云っている私の「北海道山紀行」です。

昨年の紀行文にも「年齢がかさみ、体力・気力・金力が衰えてきたので今年で区切りをつけようと思っています。」と云う文章が書かれています。

・昨年の北海道山紀行はちょうど10年目になり、内容も充実していたので、本当に「これで区切りをつける」という気持ちでいました。が 年が明けるとまた北海道が恋しくなります。

・年明けからいろいろ情報を集めていると、この10年間の活動で欠けていることが気になりだし「欠けた部分の補修をして最後を締めよう」という思いが湧いてきました。

ちょうど今年で喜寿を迎えますので、喜寿の一大事業として3つの目標を設定しました。

## 2017年 北海道山紀行・締めくくりの3大目標

### ① 幌尻岳に登る

- ・この10年間で70山近く登って来た北海道の山ですが、幌尻岳はまだ登っていません。
  - ・10年前にはいつでも登れると思っていたのが、100名山ブームで登山者が集中したため、まず幌尻山荘が、その次には林道までもが有料の予約制になり、今や無数にある100名山ツアーがその予約を押さえてしまうという、個人では全く自由のきかない山になってしまいました。アンチ100名山の私としては、全く登る気が無くなりましたが、日高の最高峰を残しておくのは残念という思いもありました。
  - ・小屋まで入山するのに林道を約20kmも歩かねばならず、あまりにも大変なため、最近はやがど使われなくなった「新冠ルート」が、上記「平取ルート」の不自由な状態を避けるため再び注目され出し、地元の新冠山岳会が力を入れて新冠幌尻山荘を整備するなど、新冠ルートが利用しやすくなった、との情報が得られました。新冠山岳会や地元の宿「ふかふか亭」などと連絡をとっていろいろ情報を集めてみると、無理をしなければ私でも入れそうだと思うようになり、新冠ルートを挑戦してみることにしました。
  - ・新冠幌尻山荘まで入るのに、入山、登山、下山、予備日と4日分の食料と生活道具を一人で背負って約20kmの林道を6時間強かけて歩くのはかなり大変でした。入山で疲れて翌日の幌尻岳登山にはこたえました。天気予報を睨みながら晴天が数日間続く天候条件を選んで入山したので3日間晴天に恵まれ、なんとか幌尻岳に登ることが出来ました。
  - ・登ったのが6月だったのでまだ平取ルートは開いておらず（開くのは7月から）、平取から入る登山者は誰もいないし、新冠ルートから入った登山者は私を含めて3人だけでした。6月28日に幌尻岳に登ったのはわれわれ3人だけで、山頂には人影が無く静かな幌尻岳を十分楽しむことが出来ました。
- 新冠ルートはアプローチが長くて大変ですが、それだけに人が少なく、予約もいらず、コース中に渡渉するところが一ヶ所しかないという利点があります。

### ② シレットコスミレに会いに行く

- ・シレットコスミレは白色の花の中心部が黄色で、距が極端に短いという特徴があり、知床・硫黄山山頂周辺でしか見られない希少な固有種で大変珍しいスミレです。私も一度は見たいと思っていたのですが、硫黄山は羅臼山と尾根続きで、羅臼山から縦走しないと行けないので日帰りで行くのは無理です。ヒグマの巣窟である知床の山を一人で縦走などとてもできないので「絶対に見ることのできない幻のスミレ」と諦めていました。
- ・ところが最近林道が開放されウトロからカムイワッカの滝まで車で入ることが出来るようになり、カムイワッカの滝から硫黄山に日帰り登山が出来ることがわかりました。そこで今年の3大目標の一つを「硫黄山へシレットコスミレを見に行く」と決めました。花期は6月下旬から7月上旬ですが、その年の積雪量や気温の変動によって花の時期は特定できず、うまく花に出会うのは大変です。知床自然センターに連絡をとってシレットコスミレの開花状況を調べたり、オホーツク総合振興局に林道の通行許可を申請したりいろいろ準備が必要でした。なにしろヒグマの巣窟知床の山ですから「ヒグマにはとにかく出会わないように注意すること。鈴や笛など音を出すことは必須。出会ったら見えなくなるまでじっとしているように。自己責任で入山して下さい。」とありがたいアドバイスをいただきました。
- \*幸いにも7月5日に硫黄山山頂近く、標高1350m付近の砂礫地で満開のシレットコスミレに出会うことが出来て、ヒグマに遭遇することもなく無事下山し、目的の一つ達成しました。

### ③恵庭岳の山頂までゆく。

・支笏湖の北に聳える恵庭岳（1319.7m）は、山頂に天を突くように突き出た美しい岩峰があり、ぜひ登ってみたいくなる山の一つです。しかし溶岩ドームの崩落により登るのは危険な状態となっており、山頂付近は2001年8月以降立入禁止となっています。2003年には地震により実際に溶岩ドームが崩落し、登れるのは第2見晴台（8合目と9合目の間・標高1210m）までで、ここを仮山頂と定めここで引き返すことになっています。

・私は以前2009年6月に登っていますが、第2展望台の仮山頂から先は通行止めだったのでそこで引き返して来ました。山頂まで入ると山の裏側にあるオコタンペ湖を見ることが出来るのですが、残念ながら見られなかったので、いつか見てみたいとの思いがありました。

・最近インターネットで恵庭岳登山を見ていると、通行止めの規制はそのままですが、みなさん平気で山頂まで行っている様子です。それなら私も山頂まで行ってオコタンペ湖を見てみたいと、「恵庭岳の山頂に立つ」を今年の3大目標の一つにしました。

○北海道の山では色々な規制も「自己責任」に任せられているケースがよくあり、結構自由に行動できるところが多いです。個人の権利が認められているようで、神奈川県では味わえない、自由な気持ちでの登山が出来ます。

6月22日に新潟港を出て小樽に上陸し、恵庭岳、幌尻岳、硫黄山の順に登って目的を全て達成し、7月8日に苫小牧港から帰宅の途につき7月9日に無事帰宅しました。